

J R 連合
 総がかりの運動を
 強く広く
 展開しよう!



日本鉄道労働組合連合会
 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-8-10 東興ビル9階
 TEL (NTT) 03-3270-4590 (JR) 057-7848
 FAX (NTT) 03-3270-4429 (JR) 057-7849
 1部20円 (但し組合費に含む)
 ●発行者 松岡裕次 ●編集者 中村鉄平

facebook
 JR連合

twitter
 JR連合

2019春季生活闘争「連合・先行組合回答ゾーン」における妥結結果を踏まえてのコメント

2019年3月22日
 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合)

連合が「先行組合回答ゾーン」として設定した3月22日までに、JR7単組が会社から回答を引き出し、今次春闘交渉を妥結した。

JR連合及び加盟全単組は、2月5日に開催した第31回中央委員会で、2019春季生活闘争方針を決定以降、「中期労働政策ビジョン(2014~2018)」で掲げたJR関係労働者のあるべき姿を実現するべく、総掛かりの闘争を展開してきた。とりわけ、国内の労働力不足が深刻さを増す中、JR産業における人材の確保・定着を喫緊の重要課題と位置づけ、ベースアップを軸とする月例賃金の引き上げに徹底してこだわるとともに、すべての労働条件や働き方を点検し改善を図る総合生活改善闘争に注力してきた。また、JR産業を支えるグループ会社や協力会社等で働く仲間の労働条件についても、「底上げ・底支え」「格差是正」の実現を前面に押し出し、JRグループ全体で生み出した付加価値の適正配分や、労働条件向上にむけた原資の創出を従来以上に強くJR各社へ求めた。そして、JR労働界において未組織労働者が多数存在している異常事態を踏まえ、JR産業における民主的な労働組合と健全で建設的な労使関係の重要性を内外に発信するなど、春季生活闘争を通じた組織拡大、JR連合への総結集の実現にむけた取り組みも展開してきた。

その結果として、3月13日にJR西労組が「ベア1,000円、年間臨給5.48ヶ月」等、14日にJR東海ユニオンが「ベア1,300円、夏季手当3.05ヶ月」等、15日にJR九州労組が「ベア300円(嘱託再雇用社員・地域社員200円)、夏季手当2.56ヶ月、地域社員の基本賃金の見直し」等、JRユニオンが「ベア平均1,050円(所定昇給額×1/6、グリーンスタッフ・エルダー社員500円)」、貨物鉄産労が「ベア200円、55歳以上の社員の賃金改善措置」等、JR北労組が「新規採用者・医療社員の処遇改善、諸手当の増額・支給範囲の拡大」等、20日にJR四国労組が「諸手当の増額、エキスパート社員の処遇改善、夏季手当1.89ヶ月」等の回答をそれぞれ会社から引き出し妥結した(7単組とも定期昇給については完全実施)。

連合が設定した「先行組合回答ゾーン」に、JR7単組が会社から回答を引き出し妥結したことは、連合「交通・運輸共闘連絡会議」に所属するJRの責任産別として、一定の社会的役割を果たし得たものと認識する。そして、大手企業の多くが前年を下回る回答を示す中、ベースアップをはじめとする月例賃金の引き上げや夏季手当(年間臨給)の増額、諸手当の改善、若年齢層や高年齢層及び非正規社員の処遇改善などの成果を獲得したことは、これまで築き上げてきた健全で建設的な労使関係を基礎として、JR各社が各単組の要求・主張に一定の理解を示した証左であり、職場で奮闘する組合員の負託に応え得ることができたものと認識する。

JR連合は、JR7単組の妥結結果を踏まえ、これからヤマ場を迎える多くのグループ労組の交渉に波及させ、JR産業で働くすべての労働者の期待に応えるべく、総力をあげて取り組む。

第19回統一地方選挙
 全員当選にむけ
 闘い抜く

【推薦候補】4月7日投票

議会名【選挙区】	氏名
北海道【札幌市厚別区】	菅原 和忠
北海道【旭川市】	笠木 薫
札幌市【東区】	藤原 広昭
静岡県【藤枝市】	佐野 愛子
愛知県【知多第一】	河合 洋介
京都府【京都市山科区】	梶原 英樹
兵庫県【西宮市】	栗山 雅史
奈良県【奈良市・山辺郡】	田尻 匠
鳥取県【西伯郡】	福間 裕隆
岡山市【北区】	楠木 忠司
広島県【広島市東区】	柿本 忠則
山口県【下関市】	酒本 哲也
香川県【高松市】	山本 悟史
高知県【土佐清水市】	橋本 敏男

3月21日、北海道をはじめとする各知事選の告示により、第19回統一地方選挙の前半戦が火蓋を切った。JR連合地方議員団連絡会所属候補者においては、道府県議選、政令市議選に臨む14人が3月29日の告示から4月7日の投票日までの選挙戦本番を迎える。JR連合は本年執行される各選挙の推薦候補者全員を当選にむけて、総力を挙げて取り組んでいく。そのために、今回の14人の必勝を大きな流れを創り出し、4月21日が投票日となる後半戦、さらには、7月執行の第25回参議院議員選挙に支援していく。(グループ労組の妥結内容については、次号以降掲載予定)

JR連合は引き続き、すべてのJR関係労働者のあるべき労働条件の実現にむけて、グループ労組春闘を支援していく。(グループ労組の妥結内容については、次号以降掲載予定)

「JR北労組」

JR北労組は3月15日、2019春季生活闘争の団体交渉を開催し、会社から定期昇給4号俸実施の他、諸制度の改正について回答を受けた。

JR北労組は、ベアゼロ回答については不満が残るものの、厳しい経営環境の中、この間求めてきた新規採用者の処遇改善や職務手当・別居手当・エルダースタッフの勤続奨励金の増額、55歳社員に対する一時金の支給、スタッフの夏季手当支給額の加算、静養休暇の有給化など、多くの制度改善が図れたことを考慮し、善が図れたことを考慮し、席上妥結した。

「JREユニオン」

JREユニオンは3月15日、団体交渉を行い、会社から新賃金について、定期昇給の実施、ベア「所定昇給額の1/6の額(平均1

「JR東海ユニオン」

JR東海ユニオンは3月14日、団体交渉を行い、会社から回答を受けた。新賃金については、「35歳ポイントの基準内賃金を標準乗数4相当の定期昇給額分とは別に、1300円(0.40%)引き上げる」とし、6年連続でベアを獲得、大

「JR西労組」

2019春季生活闘争の集中回答日を迎えた3月13日、JR西労組中央闘争委員会が団体交渉を行い、会社からベア1000円(6年連続、年間臨給5.48ヶ月、プロ採(大卒)に対する初任給調整手当の支給などの回答を受けるとともに、別居手当の見直しや、地上職の職場環境改善・昇進賃金制度全般の見直しにむけた検討の開始について口頭表明を受けた。

「JR四国労組」

JR四国労組は、3月20日、2019春季生活闘争に係る最終交渉に臨み、会社が最終回答を提示した。ベアは獲得ならなかったものの、「定期昇給の確保」「制度改善」、そして夏季手当について回答を引き出した。

「JR九州労組」

JR九州労組は3月15日、団体交渉を行い、会社から新賃金について、「定期昇給4号俸及びベア200円(2年連続)、並びに55歳以上の社員の賃金改善措置(基本給3200円加算)

「貨物鉄産労」

貨物鉄産労は3月15日、団体交渉を行い、会社から新賃金について、「定期昇給4号俸及びベア200円(2年連続)、並びに55歳以上の社員の賃金改善措置(基本給3200円加算)

「グループ労組」

2月13日のグループ労組連絡会総決起集会以意思統一を図った各単組は、春闘方針に基づき会社に要求を行い、3月25日時点ですでに6単組が妥結した。JR西日本交通サービス労組がベア2000円を獲得したことをはじめ、JR西日本マルニックス労組が6年連続となるベア1000円を勝ち取るなど、JR7単組の成果がグループ労組への相乗効果を生み出している。

2019春季生活闘争

JR7単組がベア・制度改善など
 成果を引き出す
 グループ労組も続々妥結

2019春季生活闘争において、連合が先行組合の集中回答ゾーンとして設定した3月11~15日、大手組合を中心に会社からの回答を次々に引き出した。昨年に引き続きベア獲得が相次ぐ中、JR連合においてもJR各単組が交渉のヤマ場を迎え、3月13日にJR西労組が6年連続となるベア回答を受けたのを皮切りに、JREユニオン、JR東海ユニオンが6年連続、JR九州労組が5年連続、貨物鉄産労が19年ぶりとなった昨年を引き続き2年連続のベアを勝ち取った。さらにJR北労組、JR四国労組も制度改善などを勝ち取り、妥結した。

JR7単組の成果が相乗効果となり、グループ労組からもベアをはじめ成果が続きと報告されている。

0500円)、主務職以上およびT等級以上に1000円(M等級・S等級は2000円)加算が示され、口頭で、「グリーンスタッフおよびエルダー社員の基本賃金改定として5000円加算」との回答を受けた。JREユニオンは持ち帰り、6年連続でベアを獲得できたこと、団体交渉を通じて会社と変革への挑戦に対する認識が共有できたことなど、一定の成果を確認し妥結した。

JR東海ユニオンは、最後までベアの実施をはじめとする要求実現にこだわり、粘り強い交渉を展開してきた。今後は、配分交渉へと議論を移していく。

JR九州労組は、次年度以降、固定資産税や減価償却費などの増加で厳しい事業運営が想定される中、前年同額のベアを獲得したことで、夏季手当についても株式上場以降、最高の支払月数となったことなど、会社として精一杯の回答を行ったと判断し席上妥結した。

JR九州労組は、次年度以降、固定資産税や減価償却費などの増加で厳しい事業運営が想定される中、前年同額のベアを獲得したことで、夏季手当についても株式上場以降、最高の支払月数となったことなど、会社として精一杯の回答を行ったと判断し席上妥結した。

2019春季生活闘争要求及び妥結状況表

単組名	要求日	2019年		昨年実績			
		要求	妥結	要求	妥結		
平均							
JR北労組	2月12日	0円	-	-	3月15日	0円	夏2.02ヶ月
JREユニオン	2月12日	1,050円(平均)	夏3.2ヶ月	-	3月15日	1,328円(平均)	夏2.91ヶ月
個別							
JR東海ユニオン	2月8日	1,300円	夏3.1ヶ月	夏3.05ヶ月	3月14日	1,300円	夏3.05ヶ月
JR西労組	2月8日	1,000円	年5.7ヶ月	年5.48ヶ月(夏2.74ヶ月)	3月13日	1,200円	年5.66ヶ月
JR四国労組	2月12日	0円	夏2.3ヶ月	夏1.89ヶ月	3月20日	0円	夏1.94ヶ月
平均							
JR九州労組	2月12日	300円	夏3.0ヶ月	夏2.56ヶ月	3月15日	300円	夏2.52ヶ月
貨物鉄産労	2月13日	200円	年間4.5ヶ月以上(夏2.1ヶ月以上)	-	3月15日	300円	夏1.65ヶ月+0.08ヶ月

特集

民主化闘争 51

組合員をあざむく JR東労組の二枚舌

3月15日、JR連合加盟のJREユニオンが2019春季生活闘争の団体交渉に臨み、新賃金について「ベースアップ所定昇給額の1/6の額」を含む回答を引き出したことは1面に掲載のとおりである。同日、JR総連傘下のJR東労組は機関紙「緑の風」を発行し、同様に妥結内容を報じた。しかし、そこには目を疑う文章が記載されていた。

昨年3月16日にJR東労組業務部が発した業務速報で、2018春季生活闘争の結果として「基準内賃金平均1328円の改善」「大きな成果をかちとる」とした。しかし、「748円」という数字はどこにも見当たらない。一体、昨年の成果とやらはなんだったのか。組合員は、数字を都合良く取り替えるという一貫性のない情宣で納得でき

ルター組合員の賃金改善という待遇改善と昇給係数4の定期昇給を勝ち取った」とは成果です。昨年3月16日にJR東労組業務部が発した業務速報で、2018春季生活闘争の結果として「基準内賃金平均1328円の改善」「大きな成果をかちとる」とした。しかし、「748円」という数字はどこにも見当たらない。一体、昨年の成果とやらはなんだったのか。組合員は、数字を都合良く取り替えるという一貫性のない情宣で納得でき

るのか。あらためて無責任で、組合員不在の運動であることを露呈している。さらに、振り返れば2018春季生活闘争までJR東労組は「格差べア」の根絶にこだわってきたわけであるが、今回の回答は「ベースアップ所定昇給額の1/6の額」と、まさに「格差べア」そのものである。加えて、主務職以上など上位職には100円(あるいは200円)加算されることからすれば、「大敗北」と総括した18春闘以上の「大敗北」である。

Table with 2 columns: 18春闘 and 19春闘. It compares wage improvement plans for 2018 and 2019, including average wage increases and specific conditions for different employee categories.

「職場討議資料」を作成すれば、東京・八王子・水戸地本も「職場討議資料」を作成し、「格差べア」に対する見解の違いを見せた。足並みの揃わないJR東労組の状況はさらなる脱退を招いているようだ。ジェイアールバス関東とジェイアールバス東北の2社では、JR東労組が過半数組織であったが、大量脱退が波及している。特に、バス関東では、間接社員だけでなく運転士も含めて、今年1月時点で、組合員の4割がすでに脱退したようだ。JR連合は、「まっとう

く後退している現実です。最大の課題は「組織力」を再生させるための12地本総団結と組織強化・拡大である。JR連合は、「まっとう

す」とある。しかしながら、この間、たびたび取り上げられているように、JR東労組内の内部対立は未だに激化し続けている。今春闘を巡っても、中央本部が「職場討議資料」を作成すれば、東京・八王子・水戸地本も「職場討議資料」を作成し、「格差べア」に対する見解の違いを見せた。

役員紹介



福岡県交運労協 議長 木村智隆さん

JR連合に結集する仲間皆さん、こんにちは。福岡県交運労協で議長を務めております木村智隆です。JR九州労組では中央執行副委員長、JR連合福岡県協議会では副議長も務めています。

ある福岡市、北九州市との政策・制度要求を実施するなど、JR連合を含めた交通運輸産業の政策課題解決に向けた取り組みを進めているところです。さて、福岡県は、九州における中

第18回J・R連合青年・女性役員研修会

青年世代の政治への積極的参画へ

3月21・22日、JR連合は、都内において「第18回JR連合青年女性役員研修会」を開催した。「労働組合の政治との関わり」をテーマとして、次代を担うJR連合各地協、エリア連合、および単組青年女性組織の役員ら33人が参加した。

初日は、3人の講師による講義が行われた。中村鉄平交通政策部長からは「JR連合の取り組み政策活動」として、鉄道・バスをはじめとする交通政策を中心に産業政策と、JRで働くす

最後の「JR連合と政治との関わり」について、岡裕次会長が講義し、JR連合の政治活動の歴史を振り返りつつ、今年実施される統一地方選挙や参議院議員選挙の取り組みに対する現状と課題を説明した。中山耕介組織・政治部長は「労働組合の政治活動」と題して、日本の政治情勢や税金の使途・仕組みなどに触れながら、「政治に無関心でいられても、無関係にはいられない」と締めくくった。

2日目は、会場を移し、国会議事堂を見学した。参議院議場や御休所などを巡り、参議院の歴史・役割を学んだ。その後、JR連合「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」の川合孝典参議院議員との意見交換を実施した。川合議員は「産業の発展のために政治と

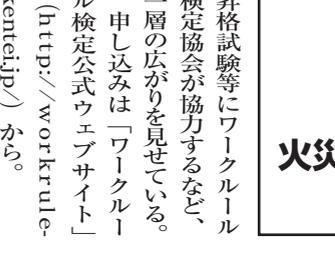
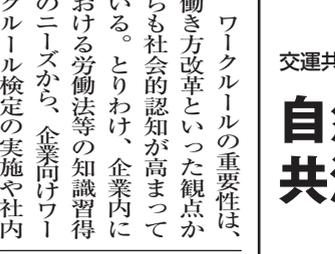
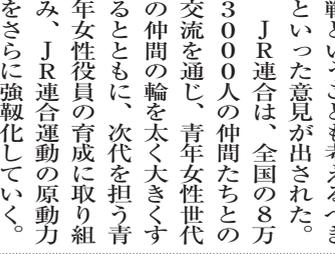
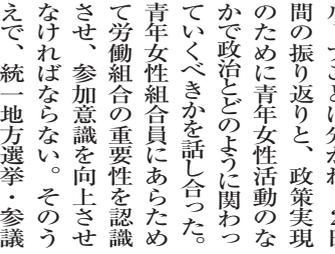
の関わりが欠かせない」としつつ、元労組役員としての経験も語り、労働組合のあるべき姿勢や組織を超えたりなど、参加者の今後の活躍にエールを送った。最後のまとめとして、グループごとに分かれ、2日間の振り返りと、政策実現のために青年女性活動のなかで政治とどのように関わっていくべきかを話し合った。

JR連合は、全国の8万3000人の仲間たちとの交流を通じ、青年女性世代の仲間の輪を大きくするとともに、次代を担う青年女性役員育成に取り組み、JR連合運動の原動力をさらに強化していく。

国会議事堂を見学し政治との関わりに対して肌身をもって感じ取った青年女性役員ら

ワークルール検定2019春(初級・中級) 自分や仲間を守る、コンプライアンス/法令を守る、コンプライアンス/法令を守る

ワークルールの重要性は、働き方改革といった観点から社会的認知が高まっている。とりわけ、企業内における労働法等の知識習得のニーズから、企業向けワークルール検定の実施や社内



ワークルールの重要性は、働き方改革といった観点から社会的認知が高まっている。とりわけ、企業内における労働法等の知識習得のニーズから、企業向けワークルール検定の実施や社内

ワークルールの重要性は、働き方改革といった観点から社会的認知が高まっている。とりわけ、企業内における労働法等の知識習得のニーズから、企業向けワークルール検定の実施や社内

ワークルールの重要性は、働き方改革といった観点から社会的認知が高まっている。とりわけ、企業内における労働法等の知識習得のニーズから、企業向けワークルール検定の実施や社内